

愛知県美術品等共同収蔵庫整備基本計画

2025 年 12 月

愛知県

愛知県美術品等共同収蔵庫整備基本計画

目次

第1 はじめに	1
第2 現状と課題	2
1 県立3施設の現状(2025年4月1日現在)	2
2 収蔵スペースの確保に係る課題	3
第3 整備計画地	4
1 検討経緯	4
2 整備計画地の立地環境等	4
(1) 立地環境	4
(2) 周辺環境	5
(3) 交通環境・道路環境	5
3 まちづくりとの整合性	5
第4 共同収蔵庫の目指す姿	6
1 基本理念	6
2 共同収蔵庫の役割とコンセプト	6
3 基本方針	7
(1) 適切な収蔵環境の実現	7
(2) 優れたメンテナンス性及びフレキシビリティ	7
(3) 利便性とユニバーサルデザイン	7
(4) サステナブルで経済的な施設	7
(5) 周辺の文化施設との連携	7
第5 共同収蔵庫の機能	8
1 県立3施設の既存機能と共同収蔵庫の関係	8
2 共同収蔵庫で保存される作品の想定	9
3 収蔵スペースの有効活用	10

第6 共同収蔵庫の施設整備方針.....	11
1 敷地の概要.....	11
2 敷地計画	11
(1) 敷地利用の基本的な考え方	11
(2) 敷地へのアクセス・敷地内の動線	11
(3) 建物配置イメージ	12
3 施設計画	12
(1) 施設規模の目安.....	12
(2) 施設の基本的な構造・設備・性能の考え方	13
(3) 機能・諸室の考え方.....	14
第7 共同収蔵庫の管理運営方針.....	16
1 管理・運営に係る基本的な考え方	16
(1) 美術館や県民の財産を『まもる』.....	16
(2) 地域や住民に『ひらく』.....	16
(3) 各本館や周辺施設と『つながる』.....	16
2 管理・運営体制	16
(1) 保存機能に係る主な業務	16
(2) 教育普及機能に係る主な業務	16
第8 事業手法とスケジュール	17
1 事業手法.....	17
2 スケジュール	17

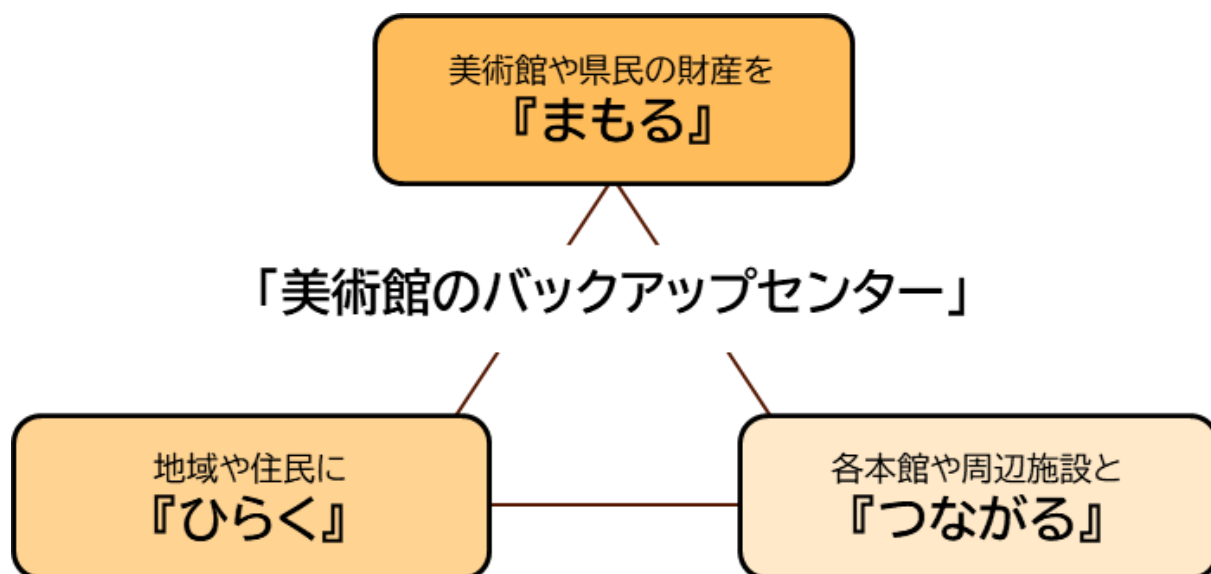
第1 はじめに

近年、全国的に美術館・博物館の収蔵スペース不足は深刻な問題となっており、愛知県においても例外ではありません。愛知県美術館、愛知県陶磁美術館及び愛知県立芸術大学(以下「県立3施設」という。)の既存の収蔵庫(以下「各本館」という。)はいずれも満杯の状態に近付いています。収蔵庫に美術作品・資料(以下「作品」という。)を保存できなくなると、破損やカビの発生等の危険性が高まり、県民の貴重な財産を守ることが困難になります。表現方法が多様化する中で、現代美術では大型の作品が増加しているなど、今後、各本館では保存が困難な作品も想定されます。多様な所蔵品に対して、適切な収蔵環境の確保と効果的な管理方法の構築が求められています。

こうした状況を踏まえ、県立3施設共通の課題に対するスケールメリットを活かした効率的な解決策として、新たに全国初となる複数施設の美術品等共同収蔵施設(以下「共同収蔵庫」という。)の整備を計画しています。

この新たな共同収蔵庫は、単に既存の収蔵機能を補完するだけでなく、将来的な収蔵環境や収蔵需要の変化に柔軟に対応しながら、作品の「保存」という美術館の基本的活動の一面を広く知っていただくための重要な役割を果たす施設として、「美術館や県民の財産を『まもる』」、「地域や住民に『ひらく』」、「各本館や周辺施設と『つながる』」の3つのコンセプトをもとに、愛知の文化芸術の魅力を一層高める「美術館のバックアップセンター」を目指します。

共同収蔵庫の整備を通じて、引き続き県民の財産である作品を適切に守り、次代に継承するとともに、愛知の文化芸術の魅力を一層高めてまいります。



図：事業コンセプトの体系イメージ

第2 現状と課題

1 県立 3 施設の現状(2025 年 4 月 1 日現在)

施設名	愛知県美術館	愛知県陶磁美術館	愛知県立芸術大学
所在地	名古屋市東区東桜 1-13-2	瀬戸市南山口町 234	長久手市岩作三ヶ峯 1-114
開館・開設	1992(H4)年開館 〈大規模改修〉 2017(H29)年～2019(H31)年	1978(S53)年開館 〈長寿命化改修〉 2023(R5)年～2025(R7)年	1966(S41)年開設 〈長寿命化改修〉 2022(R4)年～2023(R5)年 :法隆寺金堂壁画模写展示館 2025(R7)年～2026(R8)年 (予定):芸術資料館
延床面積 (施設全体)	109,062.07 ㎡ (愛知芸術文化センター全体)	20,968.60 ㎡	51,159.76 ㎡
収蔵庫面積	1,823 ㎡(中二階を除く)	1,946 ㎡(中二階を除く)	536 ㎡
所蔵品数	約 9,100 件	約 8,800 件	約 1,900 件
所蔵品の増加 傾向	約 120 件／年	約 170 件／年	約 10 件／年
所蔵品群	日本画、絵画、版画、デッサン、 書、彫刻、工芸、考古資料、 映像、写真等	陶磁、陶磁文化に関連する工芸 (漆器、金工、木工等)、考古資料、 その他(絵画、書等)	日本画、油画、版画、デッサン、 彫刻、陶磁、音楽資料等
施設の特徴	多彩な企画展及びコレクション 展を通じて、過去の美術の歴史的な展開とともに、今日の新しい美術の動きも積極的に紹介している。	世界の陶磁コレクションを擁する 日本最大のやきもの専門美術館。複数の展示館、作陶体験施設があり、美術・歴史・産業など様々な角度からやきものにアプローチしている。	個性的で魅力ある大学として、 また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、国際的に開かれた芸術文化の核となることを目指す。
所蔵品の 特徴	20 世紀の優れた国内外の作品、現在を刻印するにふさわしい作品を収集。クリムト、ピカソ等、著名作家による貴重な作品のほか、重要文化財6件所蔵。	縄文土器から現代陶芸まで日本の陶磁史が一望できるコレクションと世界のやきものを収集。特に瀬戸・常滑焼をはじめとする中世陶器のコレクションが充実。重要文化財3件所蔵。	教育研究成果である卒業・修士作品のうち特に優秀な作品をパブリックコレクションとして収集。また、学術機関の性質から、所蔵品を別途教材として活用。
博物館法上の 位置づけ	指定施設 (博物館法第 31 条第1項)	指定施設 (博物館法第 31 条第1項)	指定施設 (博物館法第 31 条第1項)
観覧者数	年間 30～40 万人で推移	年間4～5万人で推移	年間1万人程度で推移
観覧料	常設展示:500 円以内 企画展示:2,100 円以内	常設展示:400 円以内 企画展示:2,100 円以内	全て無料

2 収蔵スペースの確保に係る課題

愛知県において作品を収蔵している県立3施設の各本館は、いずれも築年数が30年を超えており、建築物の改修工事は実施されているものの、作品の収蔵スペースの増床はなされていません。県立3施設は現在、作品の収蔵能力の限界を迎えつつあり、美術館活動の根幹である作品の保存及び収集等に支障が生じかねない状況です。今後万が一適切な環境で作品を保存できなくなった場合、破損やカビの発生等の危険性が高まるおそれがあるため、県民の貴重な財産を守ることができるよう、早急に収蔵スペースを確保する必要があります。

県立3施設が抱える課題は共通している一方で、個別に各本館内・敷地内で収蔵庫を増床・増築することは、特にコスト面で非効率となるおそれがあります。

そこで、新たに県立3施設の共同収蔵庫を整備し、スケールメリットを活かして収蔵スペースを確保することとします。

〈参考〉 公益財団法人日本博物館協会『令和元年度日本の博物館総合調査報告書』(2020年9月)及び法政大学『博物館収蔵資料の保管と活用に向けた調査研究(公立博物館アンケート調査結果)報告書』(2024年5月)では、全国で6～7割の美術館・博物館において収蔵スペースに課題があると報告されています。

2025年7月に愛知県が県内の公立・私立美術館等にアンケート調査を実施したところ、7割の美術館等において同様の課題があることが確認されました。

第3 整備計画地

1 検討経緯

県有地を対象に、用途地域、アクセス、インフラ(周辺道路を含む)、災害危険性などを踏まえて適切な候補地を検討しました。特に近年、全国的に美術館・博物館が津波・台風・集中豪雨による浸水被害を受けており、災害危険性を考慮することは重要です。

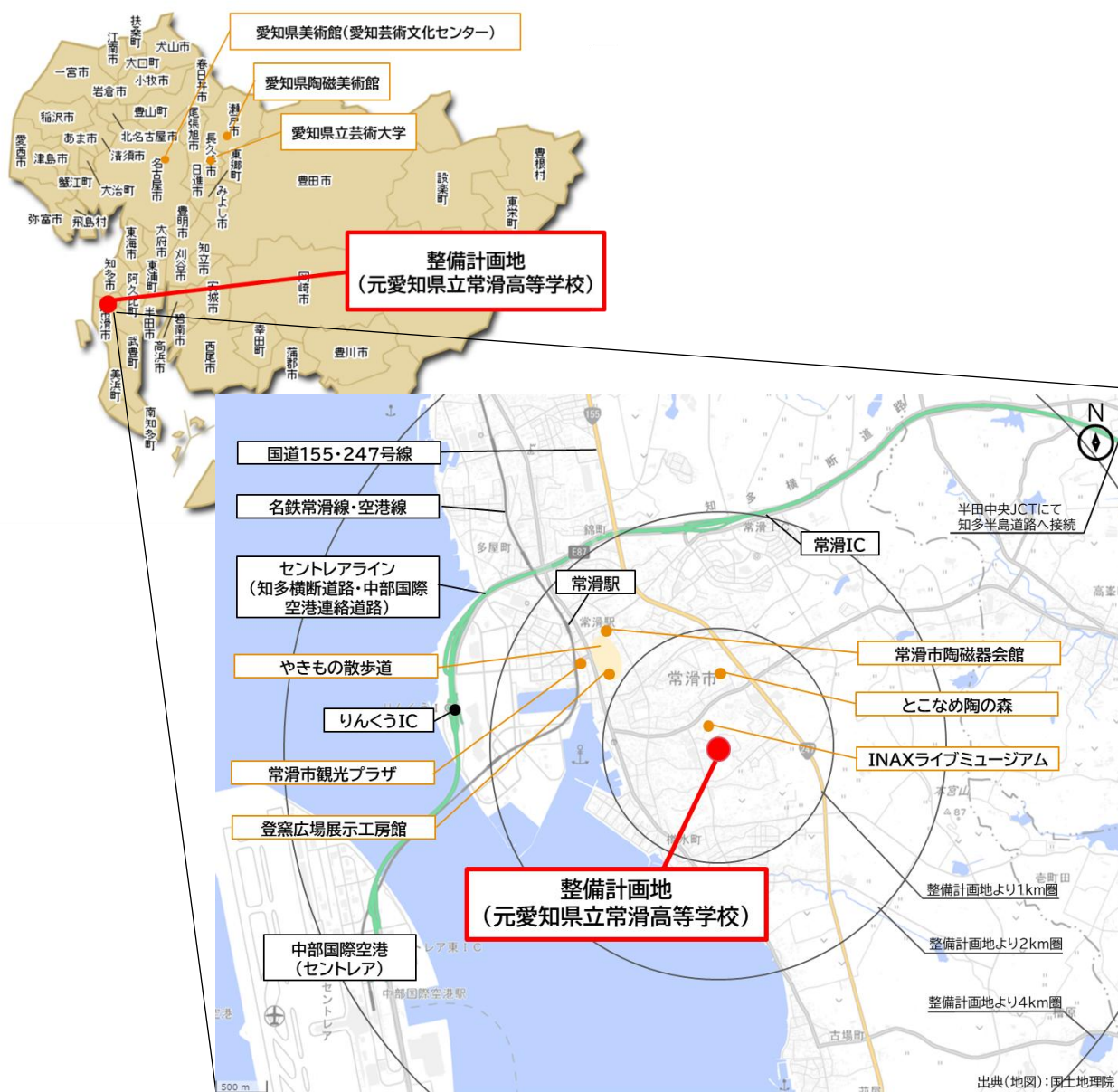
各候補地を総合的に評価し、元愛知県立常滑高校敷地を整備計画地として選定しました。

2 整備計画地の立地環境等

(1) 立地環境

整備計画地(愛知県常滑市奥栄町)は、常滑インターチェンジから約2km と交通アクセスがよく、県立3施設の各本館からは 30～40 km(愛知県美術館から約 33km、愛知県陶磁美術館から約 41km、愛知県立芸術大学から約 38km)、また、標高約 20mの場所に位置します。

敷地面積は約 59,000 m²で、共同収蔵庫を整備する上で十分な面積を有しています。



図：県立3施設と整備計画地の位置及び立地環境

(2) 周辺環境

常滑市は古くから窯業が盛んであり、整備計画地周辺にも、地域の特徴的な歴史・産業・文化資源が集積しています。

半径1km 圏内には、INAX ライブミュージアムやとこなめ陶の森があります。整備計画地に近接する INAX ライブミュージアムでは、土管やタイルなどのやきものに関する展示がみられるほか、体験型ワークショップが実施されています。2025 年4月には新たな展示館「トイレの文化館」が開館するなど、地域住民、一般客、取引先、従業員、博物館関係者など年間約9万人が来場する施設です。また、とこなめ陶の森には、常滑焼の歴史を伝える資料や製品を展示する資料館、中世に作られた大甕を展示する陶芸研究所、常滑焼の後継者を育てる研修工房があります。陶芸研究所本館は近代日本建築を代表する建築家・堀口捨己の設計で、国の登録有形文化財に認定されています。

このほか、半径4km 圏内に位置する中部国際空港(セントレア)島内には、日本初の国際空港直結型の国際展示場である愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)があります(2019 年8月開業。展示面積は国内最大級の 60,000 m²)。国内唯一の常設保税展示場であるため、海外からの出展者は輸入通関なしで展示会に出展することができます。

(3) 交通環境・道路環境

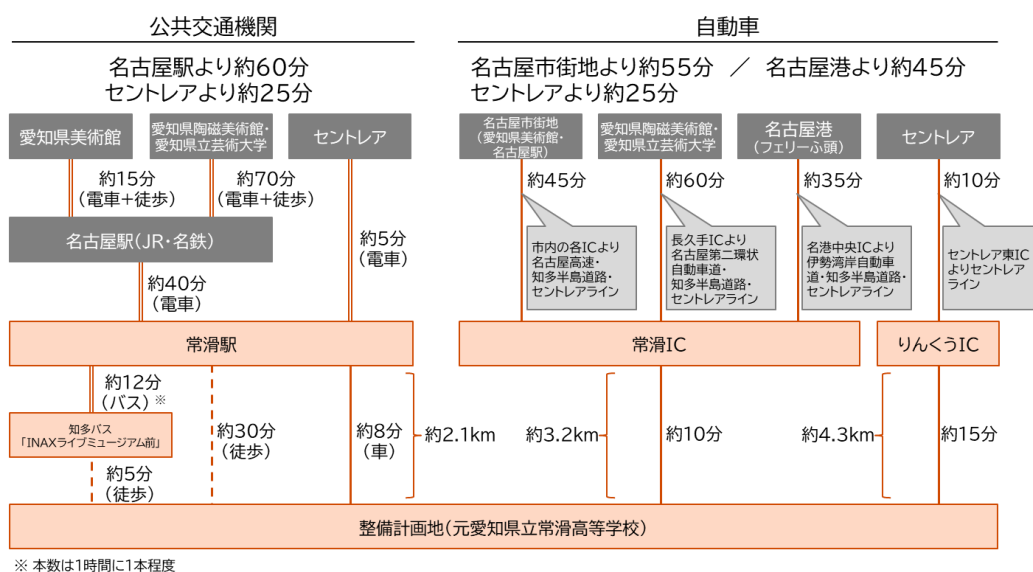


図: 主要な出発地からのアクセス目安

3 まちづくりとの整合性

常滑市都市計画マスタープラン(2020 年6月策定。2025 年4月部分改定)の将来都市構造において、整備計画地は「観光交流拠点」に位置付けられており、「伝統や文化にふれることができる観光機能や商業機能の集積を高め、地区特有の景観の保全を図る」拠点とされています。また、土地利用の方針は、「その他の住工混合地では住工複合型の土地利用の維持及び今後の土地利用動向を見ながら長期的な視点で適切な土地利用の誘導を図ります。」としており、土地利用の活性化を図るため、常滑市において整備計画地周辺の用途地域の見直し等が進められています。

このことから、共同収蔵庫の整備は、将来都市構造の実現に寄与するものであり、常滑市都市計画マスタープランと整合が図られています。

第4 共同収蔵庫の目指す姿

1 基本理念

作品の「保存」は、作品の展示と同様に、美術館の重要な基本機能の一つです。県立3施設は、県民の財産である作品を適切に守り、次代に継承するという共通の使命を担っています。そこで、県立3施設が引き続き作品の保存及び収集活動等を継続できるよう、スケールメリットを活かして収蔵スペースを確保します。なお、優れた収蔵環境が求められる中で、作品の種類や特徴は県立3施設で異なるため、収蔵室及び前室は施設ごとに区画(ゾーニング)することとします。また、本館から離れた場所でも厳重かつ効率的な管理・運営を実現^①します。

収蔵庫は美術館・博物館のバックヤードに設置されており、通常は各館の職員以外は立ち入ることができません。そのため一般の方には美術館の基本機能の一つである「保存」について、実際に見て知っていただける機会がほとんどありません。そこで、共同収蔵庫には、作品の保存状態に影響を及ぼさないよう注意しながら、収蔵環境を一部公開する機能を付与します。より多くの皆様に美術館活動への理解を深めていただけるよう、県立3施設が作品を適切に守るためにどのような考え方で保存しているのかを学べる機会を提供^②します。

なお、共同収蔵庫は、県立3施設の各本館との連携は元より、県立3施設間の作品の相互活用に資することが期待されます。また、整備計画地は交通アクセスがよく、周辺には関連する文化施設が多く立地しているなど、環境にも恵まれています。そこで、こうした様々なつながりを深め、互いに連携して地域の活性化^③を図ります。

これらの理念を踏まえ、共同収蔵庫は、「保存」及び「教育普及」の機能を担い、周辺文化施設等と連携しながら、愛知の文化芸術の魅力を一層高める「美術館のバックアップセンター」を目指します。

2 共同収蔵庫の役割とコンセプト

役割	コンセプト
① 県立3施設の適切な管理レベル・方針を尊重し、各本館から離れた場所でも効率的に作品を保存する。	美術館や県民の財産を『まもる』
② 収蔵環境の一部公開による教育普及を図る。	地域や住民に『ひらく』
③ 地域との調和性・周遊性を確保しながら相乗効果を図る。	各本館や周辺施設と『つながる』

〈参考1〉 あいち文化芸術振興計画 2027(2022年12月策定)における主な関連施策

⑬若手芸術家の活動発表・交流の場づくり

⑭国際的なパートナーシップやネットワークの構築

⑯様々な分野との連携(観光／福祉／教育／産業／まちづくり／国際交流、多文化共生／スポーツイベント)

⑰文化施設間の連携

〈参考2〉 文化分野に関する海外との提携

2024年7月にポルトガル共和国外務省と「日本国愛知県とポルトガル共和国外務省との友好交流及び相互協力に関する覚書」を締結しました。今後、文化面で人材交流を含めた連携が期待されます。

3 基本方針

(1) 適切な収蔵環境の実現

必要かつ十分な収蔵スペースを確保し、また、作品収蔵施設として安心安全なスペック・セキュリティを確保します。

(2) 優れたメンテナンス性及びフレキシビリティ

効率かつ容易な作品管理及び施設維持管理を可能とする施設とし、かつ、収蔵する作品の変化に合わせた対応を容易に実施できる柔軟性を確保します。

(3) 利便性とユニバーサルデザイン

全ての施設利用者にとって快適に利用できるようユニバーサルデザインに配慮するとともに、地域との調和性を確保します。

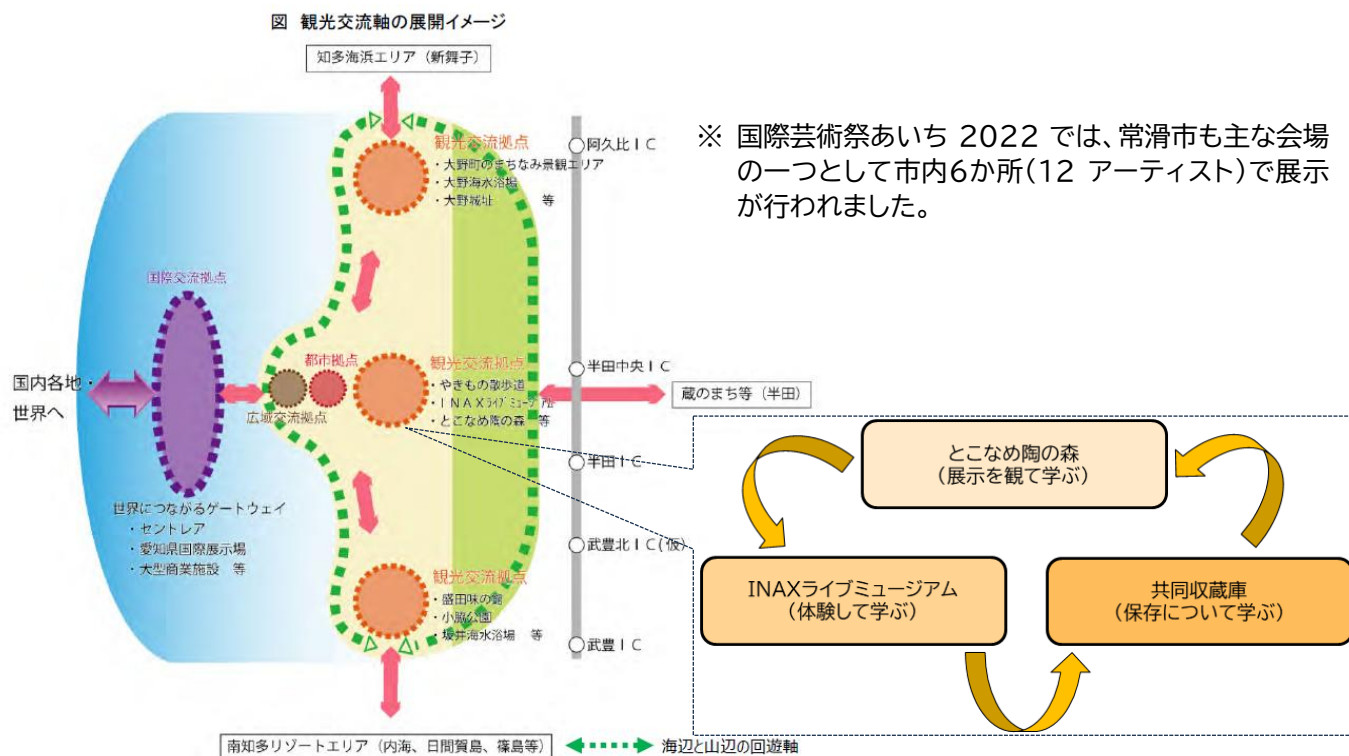
(4) サステナブルで経済的な施設

周辺環境(近隣騒音・振動など)に配慮します。また、ライフサイクルコストの削減及びランニングコストの平準化を図ります。

(5) 周辺の文化施設との連携

常滑市都市計画マスタープランでは、「観光交流軸」を形成し、「これまで以上の交流人口の拡大と、都市のにぎわいや活力の創出を図ります。」とされています。

共同収蔵庫の整備計画地から半径1km 圏内には INAX ライブミュージアムやとこなめ陶の森が位置することから、これらの既存施設との周遊性を確保し、相乗効果を図ります。



図：周辺の文化施設との連携のイメージ(一部出典:『常滑市都市計画マスタープラン』を加工)

第5 共同収蔵庫の機能

1 県立3施設の既存機能と共同収蔵庫の関係

県立3施設は、博物館法に基づき、作品の①収集、②保存、③展示・調査研究及び④教育普及を行っています。

共同収蔵庫では、このうち作品の「保存」機能のほか、保存を通じた「教育普及」機能を備えることとします。

- 県立3施設共同の収蔵施設としてスケールメリットを活かして収蔵スペースを確保するとともに、優れた収蔵環境を構築する。
- 県立3施設の各本館では見ることのできない「美術館活動の裏側」を公開することにより、収蔵庫における保存の取組について学べる機会を提供する。

基本機能	県立3施設の各本館	共同収蔵庫
①収集	◎	
②保存	◎	◎
③展示・調査研究	◎	○
④教育普及	◎ (主に③展示関係)	◎ (主に②保存関係)

〈参考〉現在の収蔵環境等



油彩画



日本画



彫刻等



工芸



大型作品



修復室

2 共同収蔵庫で保存される作品の想定

県立3施設の各本館と共同収蔵庫をそれぞれ効率的に活用するため、作品の保存にあたっての考え方を整理しています。

県立3施設の各本館で保存される作品の想定	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国指定重要文化財のほか、県立3施設を象徴する作品 ➤ 新たに取得した作品
共同収蔵庫で保存される作品の想定	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大型の作品等、現在の収蔵庫では効率的な保存が難しい作品 ➤ 運搬時の損壊リスクが少ない作品 ➤ 県立3施設間や周辺施設との相互活用に資する作品

作品移設計画(供用開始当初)

		①愛知県美術館			②愛知県陶磁美術館			③愛知県立芸術大学		
		所蔵作品	増加見込	当初移設	所蔵作品	増加見込	当初移設	所蔵作品	増加見込	当初移設
絵画	日本画、油彩画、水彩画、素描・デッサン、版画、軸装、デザイン画、模写 など	4,900件	◎	1,400件	絵画 100件	△	50件	1,000件	○	420件
彫刻	インスタレーションを含む	600件	○	500件	陶磁器 7,700件	◎	3,800件	150件	○	50件
工芸品	陶磁器、ガラス器、石器、玉器、金工品、漆器、木製品 など	2,200件	△	1,900件				400件	○	150件
書・考古・資料		950件	×	600件	デリケートな工芸品 850件	△	400件	20件	×	20件
映像・写真		450件	△	50件				30件	○	10件
音楽資料		なし	なし	なし	考古資料 150件	◎	0件	300件	×	100件
計		9,100件	年間移動件数 120件 (10年平均)	4,450件 (50%移設)	8,800件	年間移動件数 170件 (10年平均)	4,250件 (50%移設)	1,900件	年間移動件数 10件 (10年平均)	750件 (40%移設)

〈参考〉県立3施設の所蔵品(目録情報)のデジタル化及び公開状況(2025 年 12 月現在)

愛知県美術館	「コレクション検索」	https://jmapps.ne.jp/apmoa/
愛知県陶磁美術館	「愛陶オンラインミュージアム」	https://jmapps.ne.jp/aitou/
愛知県立芸術大学	「収蔵資料データベース」	https://repo.aichi-fam-u.ac.jp/dspace/

3 収蔵スペースの有効活用

共同収蔵庫では、築 30 年以上経過した県立3施設の各本館の収蔵能力を踏まえ、今後 40 年にわたり貴重な作品を安全かつ安定した状態で保存・継承するために必要な収蔵面積の確保を目指します。一方で、供用開始時に上記作品移設計画に基づき作品を保存する場合、共同収蔵庫には県立3施設がまだ利用しない収蔵スペースが生じることとなります。

そこで、当該スペースを有効活用するため、当面の間、共同収蔵庫の一部に民間事業者等が利用できる機能を付与します。美術館リソースをシェアし、県立美術館の収蔵環境を活用した収益事業等を実施(以下「営業倉庫」という。)することを想定しています。

- 供用開始後 20 年程度、共同収蔵庫の一部で県立3施設以外の作品も保存できる諸室構成・動線とする。

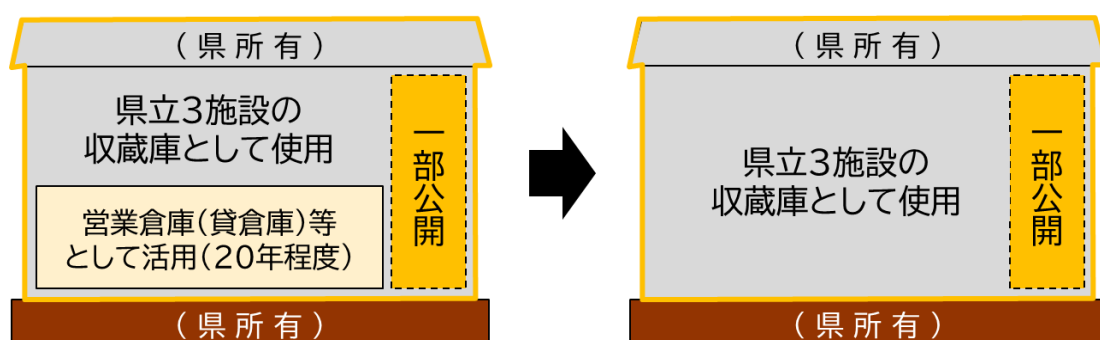


図:収蔵スペースの有効活用に関する考え方

第6 共同収蔵庫の施設整備方針

1 敷地の概要

所在地	愛知県常滑市奥栄町 1-168 他(元愛知県立常滑高校敷地)
敷地面積等	約 59,000 m ² 、標高約 20m
土地所有者	愛知県



出典(写真):国土地理院

図:敷地の地図

2 敷地計画

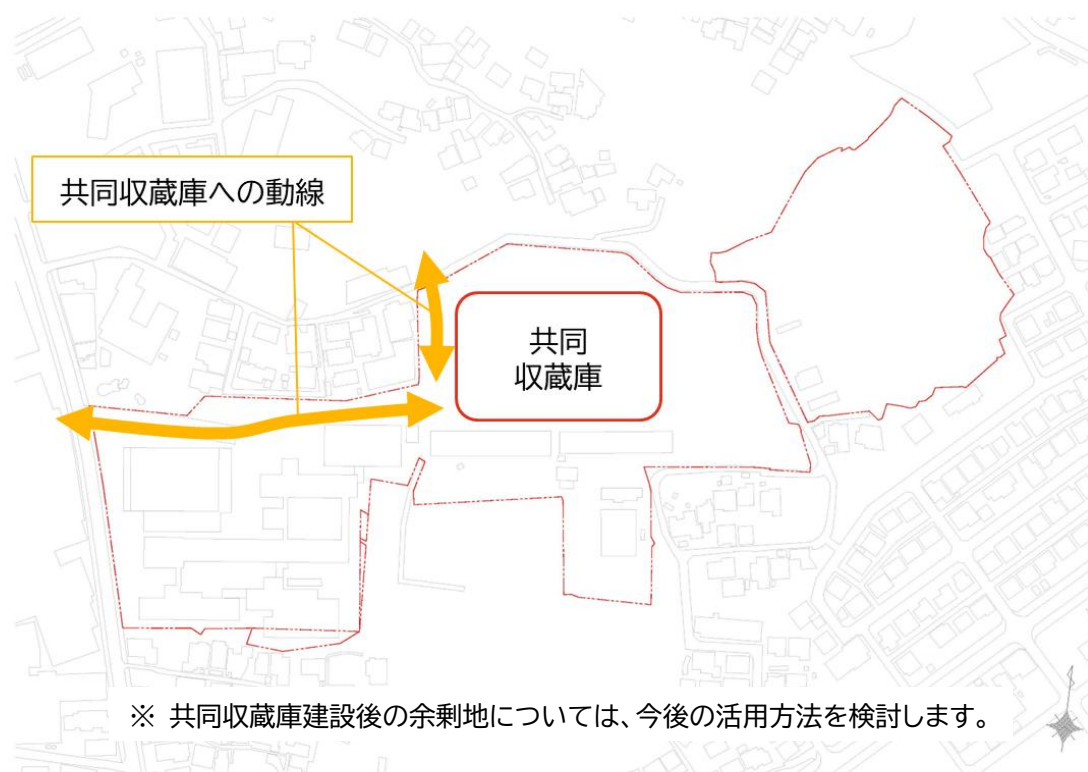
(1) 敷地利用の基本的な考え方

- ・既存建築物のない更地部分(グラウンドスペース)を活用します。
- ・共同収蔵庫や駐車場等は、利用者の利便性を考慮した配置とします。
- ・搬入スペースは、地域住民への影響を考慮した配置とします。
- ・その他、やきものに関する展示を行う INAX ライブミュージアムと近接していることなどについても考慮します。

(2) 敷地へのアクセス・敷地内の動線

- ・共同収蔵庫への車両及び歩行者等の動線を適切かつ安全に確保します。
- ・生活環境の悪化を防ぐとともに、周辺施設とのアクセス性を考慮しながら動線を確保します。

(3) 建物配置イメージ

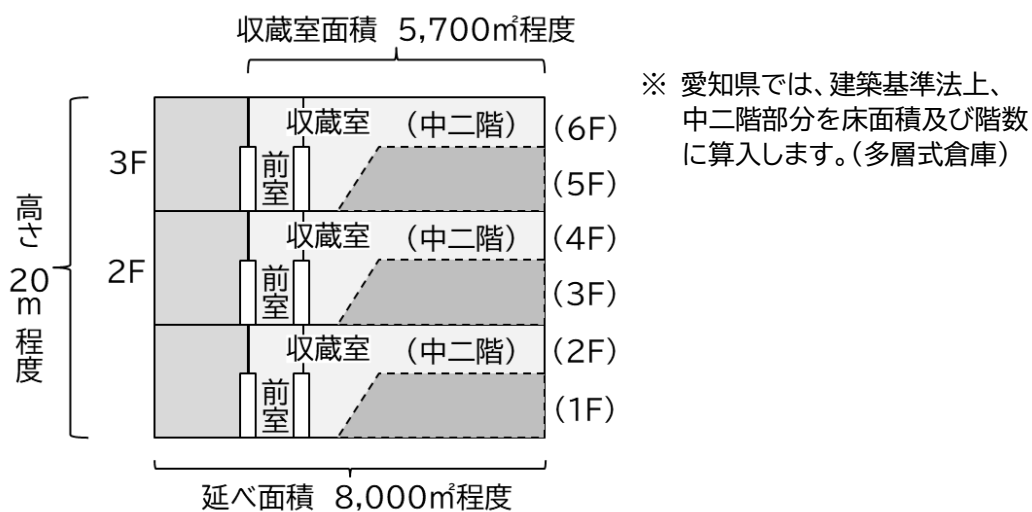


図：共同収蔵庫の配置及び敷地内動線のイメージ

3 施設計画

(1) 施設規模の目安

延べ面積の目安は 8,000 m²程度とし、収蔵面積を県立3施設の現行同等である 5,700 m²程度確保することを目指します。なお、効率的に収蔵スペースを確保するため、収蔵室には中二階(ロフト)を設置します。また、高さは、日影規制に適合する範囲で、管理・運営上の利便性を考慮し3階建相当(20m程度)を想定しています。



図：中二階(ロフト)のイメージ

(2) 施設の基本的な構造・設備・性能の考え方

ア 構造計画

建築物の構造は、使用に支障をきたさない強度と剛性を確保し、構造体及び非構造部材や設備における変形や損傷を防止することを基本とします。

各階の空間構成や利用目的と調和した適切な寸法計画を行い、作品の保存に適した収蔵環境を維持できる設計とします。

断熱性や気密性を十分に考慮し、外部からの熱負荷を抑え、室内の温湿度管理を通じて結露の発生を最小限に抑制することを重視します。

壁や天井、床などの構造は、二重構造を基本として、環境制御及び保護性能を強化します。

イ 設備計画

県立3施設が作品を適切に守り、次代に継承する共通の使命を果たすための収蔵施設として求められる機能性(光環境、熱環境、空気環境など)を維持しつつ、導入及び運用にかかる費用との調和を図り、最適な設備の導入を行います。技術的な信頼性や保守性にも配慮し、長期的な運用の円滑さを確保します。

電力供給設備は、安全かつ信頼性の高いシステムを採用します。熱源及び空調設備は、年間を通じた負荷特性や立地環境を踏まえ、効率的かつ最適なエネルギー利用を目指した設計とします。空調は、空間の方位や用途に合わせて適切な系統区分等を行い、安定した室内環境と省エネルギーを両立させます。換気設備は、各空間の規模や役割に応じて最適な方式を選択し、室内気流のバランスに配慮した運用を行います。

昇降機は、多様な利用ニーズに対応できる十分な空間と能力を備えたものとし、重荷物の搬入にも適合させます。

敷地内の雨水排水は適切に処理し、溜まりや浸透による支障を防止します。污水处理設備に関しては周辺環境の処理インフラを考慮し、設置の必要性を判断します。

ウ セキュリティ

施設の入退室管理は、利用目的や空間の特性に応じて適切な管理方法を組み合わせ、安全で効率的なアクセス制御を実現します。また、防犯設備については、不正侵入や犯罪の予防、安全性を確保し、用途や利用状況に応じた適切なセキュリティゾーンを設定し、それぞれにふさわしい防犯対策を講じます。

エ 防災

地震、火災、水害など自然災害や緊急事態に対する総合的な耐性を重視します。

耐震性能は、建築構造及び設備の安全性を確保し、震動による被害を抑制する設計を基本とします。

耐火性能は、重要な収蔵エリアの温度上昇を一定時間抑制し、消火設備は作品への影響を最小限に留める方法を採用するとともに、隣接空間からの影響にも配慮した構成とします。

浸水対策では、様々な水害リスクを踏まえた安全対策や排水計画を講じ、生命・財産の保護を図ります。

オ 環境配慮

省エネルギーの観点からは、建築及び設備の設計において環境への負荷を総合的に軽減し、建物形状や配置、開口部の特性を考慮の上、空調運用や機器動力の最適化によりエネルギー消費を抑制する仕組みを構築します。

カ 環境衛生管理(IPM: Integrated Pest Management(総合的有害生物管理))

有害生物の侵入やカビの生育を未然に防ぐため、複数の防除手段を組み合わせた総合的な管理手法を採用します。予防を第一としつつ、必要に応じて適切な対策を講じ、人体や環境への影響にも配慮して実施します。

管理業務は調査、対策、効果評価及び再対応のサイクルを持つとともに、日常的な施設管理と記録整備を含む総合的な体制で行います。専門的な知識を持つ担当者を選任し、継続的な管理体制の維持を図ります。

(3) 機能・諸室の考え方

ア 諸室構成

共同収蔵庫には保存及び教育普及機能を備えることとしているため、以下の諸室の導入を想定しています。なお、作品の種類や特徴は県立3施設で異なるため、収蔵室及び前室は施設ごとに区画(ゾーニング)することとします。

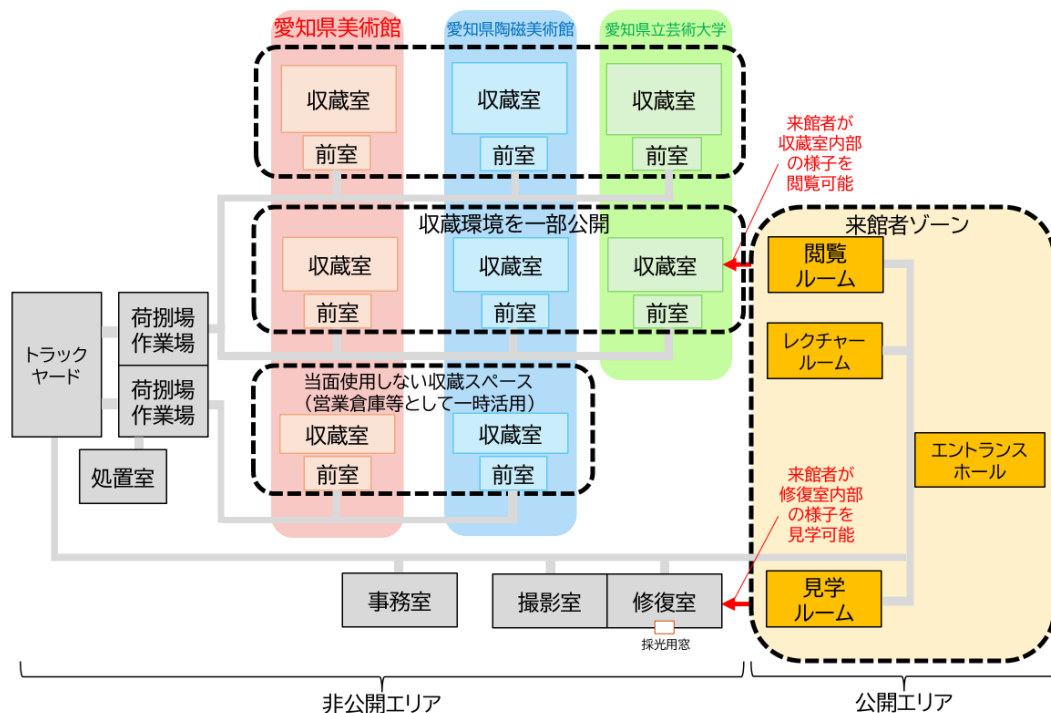
機能	主な諸室
保存	収蔵室、前室、荷捌場兼作業場、トラックヤード、修復室、撮影室、処置室
教育普及	収蔵室閲覧ルーム、修復室見学ルーム、レクチャールーム
管理	事務室、エントランスホール、風除室、EV、廊下、階段、WC、機械室、ガス消火ボンベ室

イ 動線の考え方

収蔵環境に影響を及ぼさないよう注意しながら、共同収蔵庫における保存・修復活動を一部公開することで、県立3施設の作品を安全に保存・継承する収蔵庫の機能を、県民をはじめとする来館者の方々にも知っていただけるような動線とします。

また、県が当面使用しない収蔵スペースの民間活用期間中は、トラックヤードを除き、県立3施設とその他収蔵スペース利用者が交わらない動線とします。

なお、次ページの図はあくまで動線の考え方を示したものであり、実際の平面計画とは異なります。



図：動線のイメージ

ウ 公開・非公開エリア

来館者に開かれた「公開エリア」と、学芸員や業務従事者のみが立ち入れる「非公開エリア」に分かれます。

(ア) 公開エリア

主として、教育普及機能である収蔵室閲覧ルーム、修復室見学ルーム、レクチャールームが含まれます。

(イ) 非公開エリア

主として、保存機能及び管理機能から構成されます。

エ 外観イメージ

現時点の施設整備イメージを整理すると次ページの図のようになりますが、これは必要となる機能を配置したイメージであり、今後の検討を踏まえて対応を図るものであるため、整備内容を決定したものではありません。



図：現時点での外観イメージ

第7 共同収蔵庫の管理運営方針

1 管理・運営に係る基本的な考え方

(1) 美術館や県民の財産を『まもる』

作品の保存は引き続き県立3施設の各学芸員が適切に実施し、優れた収蔵環境で作品を守ります。

(2) 地域や住民に『ひらく』

より多くの皆様に美術館活動への理解を深めていただけるよう、本館では見ることのできない「美術館活動の裏側」(作品の保存状態)を見て知っていただける機会を提供(公開)します。

(3) 各本館や周辺施設と『つながる』

共同収蔵庫と県立3施設の各本館、県立3施設間、六古窯の一つである常滑(共同収蔵庫)と瀬戸(愛知県陶磁美術館)など様々なつながりを深められるよう、地域との調和性と周辺の文化観光資源との周遊性を確保しながら、相乗効果を図ります。

2 管理・運営体制

上記の考え方を実現するため、適切な管理・運営体制を構築します。

なお、県立3施設の作品の保存は各施設の職員(※)が行うことを想定しています。

※愛知県美術館及び愛知県陶磁美術館は地方独立行政法人愛知県美術館機構(2026 年4月設立予定)が所管し、愛知県立芸術大学は愛知県公立大学法人が所管します。

(1) 保存機能に係る主な業務

- ・作品の運搬、保存、修復、撮影
- ・作品の貸出、調査、研究、情報整理

(2) 教育普及機能に係る主な業務

- ・企画、運営
- ・来館者サービス
- ・広報、情報発信、対外連携

なお、県立3施設が当面使用しないスペースの活用(営業倉庫)にあたっては、共同収蔵庫の機能を踏まえた適切な管理・運営体制とします。

第8 事業手法とスケジュール

1 事業手法

愛知県の公有財産である共同収蔵庫の設計・建設・維持管理・運営の発注を従来型の公共発注(個別発注)とするか PPP/PFI 手法(包括発注)を用いるかなど、民間活力の導入可能性について調査しました。

様々な事業手法について検討し、事業コンセプトや施設機の特性に基づく定性的・定量的な比較を行い適性を総合的に評価しました。

事業の実施にあたっては、民間のノウハウや創意工夫による効率化を図るため、設計・建設・維持管理・運営を包括的に発注する PFI(BTO)方式により実施することとします。

BTO(Build-Transfer-Operate)は、民間事業者が施設を建設(Build)し、施設の所有権を県に移管(Transfer)した上で、引き続き施設の維持管理・運営(Operate)を行うものです。PFI(BTO)方式を導入することにより、中長期的な管理運営を見据えた効率的な施設整備が期待できます。本事業では維持管理・運営期間を 20 年と想定しています。

事業期間中における施設性能の確保を条件とし、PFI(BTO)方式の導入を通じて、「まもる」「ひらく」「つながる」の 3 つのコンセプトを実現するほか、共同収蔵庫のさらなる魅力向上を図るための事業提案が得られることを期待しています。

2 スケジュール

今後、事業者選定に向けた準備を進め、事業者選定・契約後に、設計・建設に着手します。

スケジュールは、現時点では以下のとおり想定していますが、今後、変更する可能性があります。

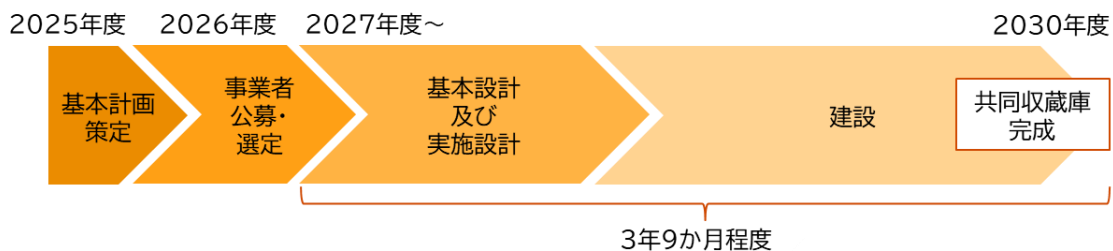


図:今後のスケジュール